

## ユネスコスクール・キャンディデート

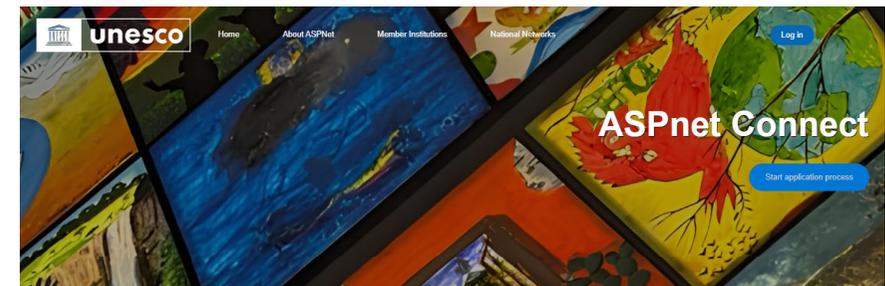
○令和3年2月の日本ユネスコ国内委員会教育小委員会において「ユネスコスクールの新たな展開に向けて」を決定した。その中で、ユネスコ本部による新規登録の手続きがスムーズに進まない状況が続いており、活動の意欲低下が懸念されていたことから、日本独自の取組として、**国内手続きを終え、ユネスコへの登録申請待ちの学校を、「ユネスコスクール・キャンディデート」と称し、国内に限ってユネスコスクールのネットワークへの加入や活動を可能とした。**

○令和6年9月以降、ユネスコ本部での新規登録が再開されたことに伴い、全ての認定手続きが完了した時点で、ユネスコスクール・キャンディデートの仕組みを終了することを、令和6年8月の日本ユネスコ国内委員会教育小委員会において決定した。

## ユネスコスクール・キャンディデートの認定状況

- ユネスコ本部の認定済み：113校
- ユネスコ本部の認定待ち：14校
- 申請準備中：28校

（令和7年7月15日時点）



Welcome to ASPnet Connect, the UNESCO Associated Schools Network (ASPnet) collaborative platform

The platform includes a map and directory of member institutions and national networks from - so far - over 120 countries. Browse through the Platform to discover this vibrant community of educators dedicated to promoting UNESCO's ideals through education.

Candidate institutions can submit their application to join the Network through the platform by clicking on the 'Start Application Process' button above.

*Please note. The platform is still in development so you may encounter bugs. Feedback or suggestions are therefore welcome. They can be communicated to UNESCO through the Feedback Form.*



新システムASPnet Connectトップページ

# 令和6年度ユネスコスクール定期レビュー（結果抜粋）

## ユネスコスクール定期レビューについて

○令和3年2月の日本ユネスコ国内委員会教育小委員会において決定した「ユネスコスクールの新たな展開に向けて」では、登録から時間が経った学校の活動低迷が課題であることが挙げられた。

○ユネスコにおいてメンバーシップ期間(3～5年)が導入されたことも踏まえ、日本においても令和4年度から定期レビュー制度を導入。

○約1,000校を毎年約200校ずつレビューをすることとし、令和6年度は3回目の実施。

## 定期レビュー結果

- ・定期レビュー対象校:227校
- ・定期レビュー実施:219校
- ・認定取下げ:8校

最終全体評価	学校数
5	3
4	80
3	112
2	22
1	2

※最終全体評価が2以下の学校は、中期活動改善計画書を任意で作成。

## 成果と課題（定期レビュー研修会のディスカッションシートから抽出）

### <成果>

- 児童生徒の自主的な活動が増えた／ESDが子どもたちや教職員、保護者に広がってきた
- ユネスコスクールの理念をふまえた研究主題を設定し、授業づくりの中心にしている
- 近隣のユネスコスクールのネットワークにおいて毎年発表会を実施し、実践の共有と意見交換ができています
- 異文化体験交流を授業に組み込んでいる
- 地域の資源(企業、人材、公共施設等)を生かした授業を行っている

### <課題>

- 教職員の異動によってユネスコスクールの理念や取組の継続が難しい、教職員間での意識の差が生じている
- ユネスコスクールであることの児童生徒への周知が不十分
- 地域内交流はできているが、地域外への発信、働きかけが弱い
- 学校間交流ができていない
- 部活動での取組が中心となり、ホールスクールアプローチになっていない

# 令和6年度ユネスコスクール活動調査（結果抜粋）

## ユネスコスクール活動調査とは

- ユネスコスクールの活動の一層の振興に向けて、ユネスコスクールの現状、課題、成果等を把握することを目的にユネスコスクール事務局である公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)が実施。
- 令和6年度調査は、全ユネスコスクール加盟校979校に対してウェブ上で回答を募った結果、342校から回答を得た。（回答率約35%）

## 調査結果から見る成果と課題

### <国内外の学校間交流について>

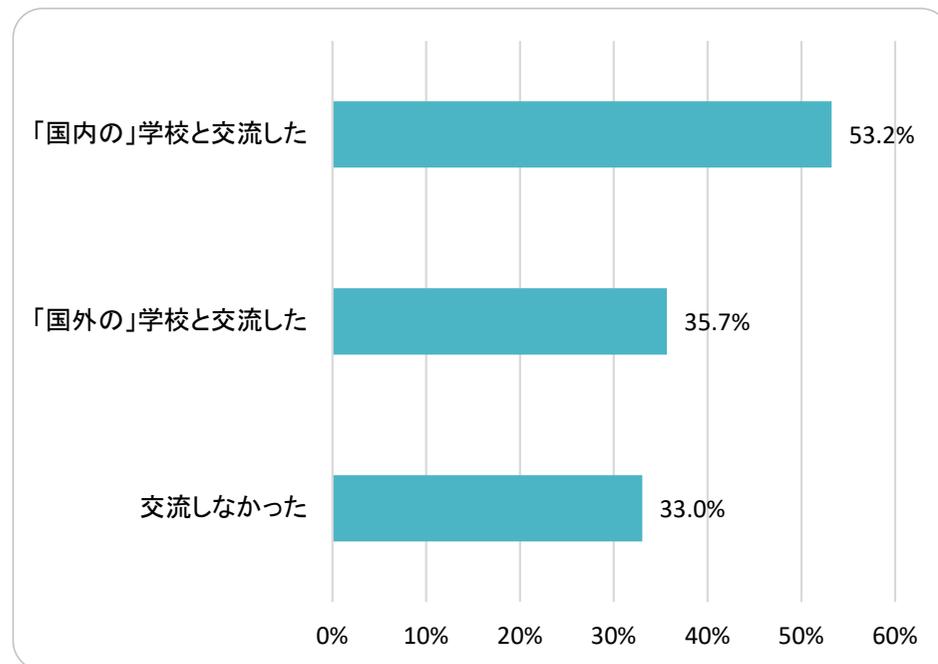


図9 国内外の学校との交流

### ○学校間交流の主な成果

- ・交流を通じて多様な価値観に触れ、自己の考えや互いの理解を深めることができた。
- ・国際交流の中で、異文化への理解が深まり、世界を身近なものとして考えられるようになった。
- ・他校の取組を自校に取り入れることができ、活動の質が向上した。
- ・英語を使って積極的に交流する意識が養われた。

### ○交流しなかった理由

- ・交流するための人員確保が難しいから
- ・交流するための方法が思いつかないから
- ・交流するための費用を捻出するのが難しいから
- ・交流校を見つけるための支援がないから

# 令和6年度ユネスコスクール活動調査（結果抜粋）

## 調査結果から見る成果と課題

### <外部団体との連携について>

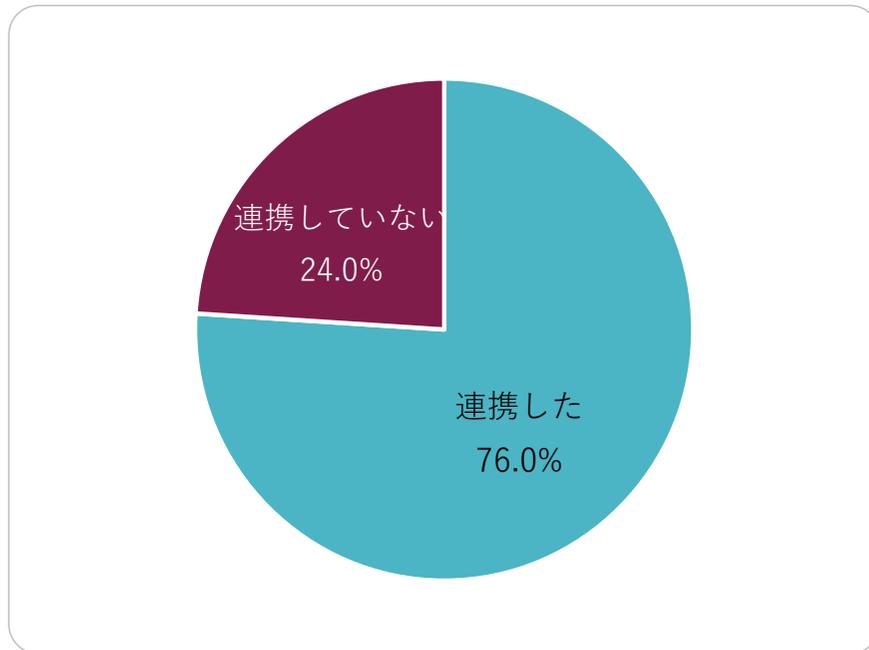


図19 外部団体との連携の有無

#### ○連携先の外部団体（上位4団体）

地域の協力者 / 公民館 / PTA(保護者) / 教育委員会・首長部局(市区町村の役所など)

#### ○外部団体との主な連携内容

- ・講師を招へいし、児童・生徒の活動の指導・支援をもらった
- ・施設を訪問した
- ・教材を提供してもらった

#### ○外部団体と交流したことによる主な成果

- ・学校の資源だけでは実施できない多様な活動ができた
- ・専門的なアドバイスをもらうことで、教員以外の視点から社会について学ぶ機会となった
- ・外部団体の取組を知ることによって、児童生徒の地域社会に対する視野が広がった

### <ユネスコスクール事務局に求める支援内容>

- ・海外の学校との交流支援
- ・教育活動に関心がある地域企業や団体の情報提供
- ・近隣のユネスコスクールとの連携の仲介
- ・出前授業で利用できる人材や企業リストの提供
- ・中学生が取り組めるボランティアの紹介
- ・活動費用支援

# ユネスコスクール活性化のために

## <課題>

- 令和元年度以降、ユネスコスクールの数が減少傾向にあった
- 主な活動分野に偏りがある
- 登録から時間が経ったユネスコスクールの活動低迷
- 国内外の学校間交流が十分でない(特に国際交流)



## <方向性>

- ユネスコへのスムーズな加盟認定の継続的な働きかけ
- 他のユネスコ登録事業(世界遺産、無形文化遺産、ジオパーク、エコパーク等)等の外部団体との連携促進
- 優良事例の横展開(大会やセミナーの実施、ユネスコスクール公式ウェブサイトの活用等)
- 国際交流の推進

# 令和7年度ユネスコスクール全国大会、地方セミナー

## ユネスコスクール全国大会

ユネスコスクールネットワークの活性化と活動の深化に資する情報収集・共有の促進を図るため、加盟校の教職員ら教育関係者を主な対象とした全国大会を開催する。また、国内ユネスコ活動関係者間の連携を促進する機会ともする。

- 日時: 2025年12月6日(土)
- 場所: 上智大学(オンラインで同時配信)

## ユネスコスクール地方セミナー(新規)

ユネスコの理念やユネスコスクールの活動方針、支援メニュー等の情報提供や、ユネスコスクールによる事例発表、ワークショップ等を通じて関係者の理解を深め、ユネスコスクールの活性化と活動深化に資する。

また、ユネスコスクールと地域のユネスコ活動関連団体との連携の機会ともする事で、ユネスコ活動につながりを作り、ユネスコ活動全体の活性化を図る。

### ○参加対象者

- ユネスコスクール関係者(教職員、教育委員会関係者も含む)
- ユネスコスクールへの加盟を検討している学校関係者
- ユネスコ活動関連団体等

### ○今年度の実施スケジュール

- 第1回: 2025年9月20日(土) 会場: 福岡教育大学
- 第2回: 2025年11月15日(土) 会場: 岡山大学
- 第3回: 2026年1月31日(土) 会場: 東北大学

# ユネスコスクール国際交流推進事業（新規事業・企画案）

## 背景と課題認識

日本のユネスコスクールでは国際交流が十分に行われていない現状

→交流先の選定や連絡手段の確保が困難、教職員の知識・経験不足、時間・人的リソースの不足、言語の不安

## 事業の趣旨・目的

ユネスコスクールの目的である「国際ネットワークの一員として世界中の学校と知見を共有し、パートナーシップを育むこと」及び第四期教育振興基本計画において示されているグローバル人材育成の基本方針を推進するために、国際交流活動に取り組む学校を支援する。

## 事業例

- 学校段階に応じた国際交流のマニュアル作成
- ユネスコスクールが活用可能な各地で提供されている国際交流プログラムの情報収集、紹介
- 好事例の発信、横展開 等

# (参考) ユネスコスクールについて

## ユネスコスクールとは

- ASPnet:(UNESCO Associated Schools Network)は、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践することを目的とし、昭和28(1953)年に発足した国際的なネットワーク。ASPnetへの加盟承認はユネスコが行う。
- 現在、世界180の国の約10,000校が加盟する、ユネスコで最も大きなネットワーク。
- 日本ではASPnetへの加盟が承認された学校を「ユネスコスクール」と呼称。

## 参加資格

- ユネスコの理念に沿った取組を継続的に実施すること  
就学前教育・小学校・中学校・高等学校・技術学校・職業学校、教員養成大学  
(教員養成大学以外の大学は、ユニツイン／ユネスコチェア事業があるため対象外)

## ユネスコスクールの目的と活動テーマ

1. ユネスコ憲章と国連憲章に通ずる理念として、基本的人権、人間の尊厳、ジェンダー平等、社会的進歩、自由、公正、民主主義、多様性の尊重、国際的な連携などを推進する。
2. ユネスコの任務である教育・文化・科学・コミュニケーションの分野における平和のための国際協力に資する「アイデアの実験室」として、組織や人材の能力開発と政策やモデルの構築に貢献するために、国際間・地域間協力を進める。
3. 斬新で創造的な教育手法を開拓し、グローバルな概念を学校レベルの実践に落とし込んで実験的機能を果たすことにより、教育制度や政策の変化を促す。
4. 国際ネットワークの一員として、同じような志を持つ世界中の学校と知見を共有し、パートナーシップを育む。
5. 国際社会の構成員であるという意識を持ち、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献する。  
特に、SDGsの目標4(教育)に関連して、以下のテーマに重点的に取り組む。
  - ・ 地球市民および平和と非暴力の文化
  - ・ 持続可能な開発および持続可能なライフスタイル
  - ・ 異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重

(参考)「UNESCO Associated Schools Network  
-Guide for National Coordinators-」

# (参考) 日本でのユネスコスクールの位置付け

## 持続可能な開発のための教育（ESD）の推進拠点

日本では、学校教育を通じたESDの推進に先導的な役割を果たすことを期待して、ユネスコスクールを**ESDの推進拠点**と位置付けている。

ESDとは:

持続可能な社会の創り手を育むため、現代社会における地球規模の諸課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、その解決に向け自分で考え、行動する力を身に付けるとともに、新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育。

## 第4期教育振興基本計画における位置付け

第4期教育振興基本計画（令和5年6月閣議決定）

### IV. 今後5年間の教育政策の目標と基本施策

（目標、基本施策及び指標）

＜目標6 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成＞

#### 【基本施策】

##### ○持続可能な開発のための教育（ESD）の推進

- ・我が国が**ESDの推進拠点として位置付けているユネスコスクール**を中心に、引き続き国内外の学校間の交流や好事例の発信等の活動の充実を図る。また、学習指導要領等に基づき、各学校段階において、**ESDの目的である「持続可能な社会の創り手」を育む**。
- ・ESDの強化とSDGsの17の全ての目標実現への貢献を通じて、より公正で持続可能な世界の構築を目指す「ESD for 2030」の理念を踏まえ、地域の多様な関係者（学校、教育委員会、大学、企業、NPO、社会教育施設など）をつなぐ重層的なネットワークを強化する。

# (参考) 日本のユネスコスクールの活動

近年では世界180か国で約10,000校がASPnetに加盟。日本国内の加盟校数は970校(2025年3月現在)で世界最多。世界全体の約1割を占め、多種多様な活動が行われている。

## ユネスコスクール数の推移

昭和31年度		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
6	~	24	78	152	277	367	550	705	913	939	1008	1033	1116	1120	1115	1090	970

## ユネスコスクールの主な活動分野及び活動校数

(複数選択可)

1	環境	465校
2	国際理解	318校
3	持続可能な生産と消費	280校
4	人権	271校
5	減災・防災	260校
6	平和	262校
7	世界遺産・無形文化遺産・地域の文化財等	249校
8	福祉	239校
9	文化多様性	228校
10	生物多様性	211校
11	食育	196校
12	気候変動	154校
13	エネルギー	141校
14	海洋	137校
15	ジェンダー平等	137校



16	健康	132校
17	貧困	103校
18	グローバル・シチズンシップ教育	100校
19	その他の関連分野	71校
20	エコパーク	42校
21	ジオパーク	38校

(「ユネスコスクール公式ウェブサイト」加盟校情報 主な活動分野より抜粋)